特別
90
2

萬葉集卷第二

相聞

仁德ハ

難波高津宮御宇天皇代

磐姫皇后思天皇御作歌四首

或本歌一首

古事記歌一首

天智諱葛城釐明第一皇子母皇極天皇也

近江大津宮御宇天皇代

天皇賜鏡王女御歌一首

鏡女王トアルヘキヲ誤テ王女トセリ下皆用シ

鏡王女奉和歌一首

内大臣藤原鄕嫂鏡王女時鏡王女贈内大臣歌一首

内大臣報贈鏡王女歌一首 本文臣ノ下藤原卿三字アリ

内大臣娶采女安見兒時作歌一首 本文臣下同上

久米禪師嫂石川郎女時歌五首

大伴宿禰嫂巨勢郎女時歌一首

臣勢郎女報贈歌一首

明日香清御原宮御字天皇代 天武

天皇賜藤原夫人御歌一首

藤原夫人奉和歌一首

藤原宮御字天皇代 持統

大津皇子竊下於伊勢神宮還上時大伯皇女御歌一首 本文還上ヲ上来トシ御ノ下作字アリ

大津皇子贈石川郎女御歌一首

石川郎女奉和一首

大津皇子竊婚石川女郎時津守連通占露
其事皇子御作歌一首
日並皇子尊賜石川女郎歌一首 女郎字曰大名兒
幸吉野宮時弓削皇子賜額田王歌一首
額田王奉和歌一首 本文賜ヲ贈與ト作
從吉野折取蘿生松柯遣時額田王奉入歌
一首
但馬皇女在高市皇子宮之時思穗積皇子
御作歌一首
勅穗積皇子遣於近江志賀山寺時但馬皇
子御作歌一首
但馬皇女在高市皇子宮時竊接穗積皇子
之事既形而後御作歌一首
舍人皇子御歌一首
舍人娘子奉和歌一首
弓削皇子思紀皇女御歌四首

三方沙彌娶園臣生羽之女未經幾時卧病

作歌三首

石川女郎贈大伴宿禰田主歌一首

大伴宿禰田主報贈歌一首

石川女郎更贈大伴宿禰田主歌一首

天武オホミヤノ皇子

大津皇子宮侍石川女郎贈大伴宿禰宿奈麻呂歌一首

フルスメロトニ

長皇子與皇弟御歌一首

イロトノミコニオクリ玉フ
ミオトノミコニ

御

柿本朝臣人麿從石見國別妻上來時歌二首 并 短歌

或本歌一首 并 短歌

柿本朝臣人麿妻依羅娘子與人麻呂相別歌一首

挽歌

竹林樂 三字誤テ入

後岡本宮御宇天皇代

有間皇子自傷結松枝歌一首

長忌寸意吉麿見結松哀咽歌二首

山上臣憶良追和歌一首

大寶元年辛丑幸紀伊國時見結松歌一首

近江大津宮御宇天皇代

天皇聖躬不豫之時太后奉御歌一首

一書歌一首

天皇崩御太后御作歌一首

天皇崩時婦人作歌一首　未詳姓氏

天皇大殯之時歌二首

太后御歌一首

石川夫人歌一首

從山科御陵退散之時額田王作歌一首

明日香清御原宮御宇天皇代

十市皇女薨時高市皇子尊御作歌三首

天皇崩時太后御作歌一首

一書歌二首

天皇崩之後八年九月九日奉爲御齋會之
夜夢裏習賜御歌一首
藤原宮御宇天皇代（持統）
大津皇子薨後大來皇女從伊勢齊宮還京
之時御作歌二首（本文ニ還ヲ上ニ作）
移葬大津皇子屍於葛城二上山之時大來
皇女哀傷御作歌二首
日並皇子尊殯宮之時柿本朝臣人麿作歌

一首並短歌
或本歌一首
皇子尊舍人等慟傷作歌二十三首（本文尊下宮字アリ傷ヲ傷ニ作）
柿本朝臣人麿獻泊瀬部皇女忍坂部皇子
歌一首並短歌（共天武天皇子也）
明日香皇女木殯宮之時柿本朝臣人麿
作歌一首並短歌
高市皇子尊城上殯之時柿本朝臣人麻呂

作歌一首 并 短歌

或本歌一首

但馬皇女薨後穂積皇子冬日雪落遥望御墓悲傷流涕御作歌一首

弓削皇子薨時置始東人作歌一首 并 短歌

柿本朝臣人麿妻死之後泣血哀慟作歌二首 并 短歌

或本歌一首 并 短歌

吉備津采女死後柿本朝臣人麿作歌一首 并 短歌

本文後ヲ時トス

讃岐狭岑島視石中死人柿本朝臣人麿作歌一首 並 短歌

柿本朝臣人麿在石見國臨死之時自傷作歌一首

柿本朝臣人麿死時妻依羅娘子作歌二首

丹比真人 名闕 擬柿本朝臣人麿之意

報歌一首

或本歌一首

寧樂宮 元明

和銅四年歳次辛亥河邊官人姫島松原見孃子之屍悲嘆作歌二首

靈龜元年乙卯秋九月志貴親王薨時作歌一首 并短歌 本文年十歳次二字アリ時ノ作ノ字アリ并短哥三字今脱

或本歌二首

仁德紀元年正月難波ニ都シタマヒテ高津宮トミヨシニエタリ

難波高津宮御宇天皇代 大鷦鷯天皇 仁德 細書スベキ下同

相聞 コハ相思フ心ヲ互ニ告寄ユヘカクハイヒリ後ノ集ニ恋トイフニヒトシサレド必集ハ親子兄弟ノ相シタシミ思フ哥ヲモモテコトヒロキナリ

磐姫皇后思天皇御作歌四首 哥數ノ記スハ後人ノ所為也 磐之姫ノ御名ノ書クハ今法ニモ背集例ニモ違ヘリ可削去

君之行氣長成奴山多都禰迎加將行待爾可將待 此首ノ左ニ注セル古事記軽太郎女ノ御哥ト設其事モ又設ヲ類聚哥林ニ載タルヲ混ヲ又後人ノ本文トセシヘ当削去 是ハ皇后ノ御哥ニアラズ誤テ入タリ字モアヤマリアリ

右一首歌山上憶良臣類聚歌林載焉

如此許戀乍不有者高山之磐根四卷手死奈麻死物乎 コヒツヽアラズハ、カクコトウ在シヨリハトカヽ高ヤマニ石ハイヅクニモヤレ葬ラサヤイヒマシモノヲハヒナンモノヲトカ

在管裳君乎者將待打靡吾黒髮爾霜乃置萬
代日
秋之田穂上爾霧相朝霞何時邊乃方二我戀
將息
或本歌曰
居明而君乎者將待奴婆珠乃吾黒髮爾霜者
零騰文
右一首古歌集中出

古事記曰軽太子奸軽太郎女故其太子流
於伊豫湯也此時衣通王不堪戀慕而追往
時歌曰
君之行氣長久成奴山多豆乃迎乎將往待爾
者不待 此云山多豆者是今造木者也
右一首歌古事記與類聚歌林所説不同
歌主亦異焉因撿日本紀曰難波高津宮
御宇大鷦鷯天皇廿二年春正月天皇語

曰紀　岬

則所其採御細葉桜於海而不著岸故時人号散葉之海口葉濟也爰天皇不知皇后忽不著岸幸大津待皇后之船而歌曰

皇后納八田皇女將爲妃時皇后不聽爰
天皇歌以乞於皇后之云三十年秋九月乙
卯朔乙丑皇后遊行紀伊國到熊野岬取
其處之御綱葉而還於是天皇伺皇后不
在而娶八田皇女納於宮中時皇后到難
波濟聞天皇合八田皇女大恨之云亦
曰遠飛鳥宮御宇雄朝嬬稚子宿禰天皇
二十三年春正月甲午朔庚子木梨輕皇

子爲太子容姿佳麗見者自感同母妹輕
太娘皇女亦艶妙也云遂竊通乃悒懷少
息廿四年夏六月御羹汁凝以作氷天皇
異之卜其所由卜者曰有内亂蓋親親相
姦乎云云仍移太娘皇女於伊與者今案二
代二時不見此歌也
近江大津宮御宇天皇代　天智
天皇賜鏡王女御歌一首　鏡女王ハ額田女王ノ姉ニマス

妹之家毛繼而見麻思乎山跡有大島嶺爾家
母有猿尾

高キ嶺ニ住タハベ女王ノ方常ニミモノヲトノ一云妹之當繼而毛見武爾
一云家居麻之乎

鏡王女奉和御歌一首　鏡王女又曰額田

此注非也此注ハ額田姫王ト同人ト思ヒ誤レル後人ノ各入

姫王也

隱シテトヲカクリテトヲハ例シ秋ハ水ノ下レバ心下水ノ増ルニ譬ヘテ吾恋奉ルコソ君ヨリモ

秋山之樹下隱遊水乃吾許曾益目御念從者

内大臣藤原郷嬭鏡王女時鏡王女

此四字可削去

臣歌一首

車ノ蓋ハホアフモ安シトイフヨリアルトツヒケタリサテ夜ノ明ルコニイヒ

「鎌足卿ヘ次女王此時天皇ノ寵オトロヘタルヲ鎌足卿ヨビシナルベシ

玉匣覆乎安美開而行者君名者雖有吾名之

惜毛

ムカケタル序ノニ三ノ句ニ依テ次卿ノ来テ夜更シ共歸ラハスヲ女王ノワビテイヒ遣ル哥ナルベシ悔ルニ君吾二字互ニ誤リツラン

或本ノ三室戸山ト云ハ心エズ巻七珠クシゲ見諸戸ト有ハ旅ノネノ中ニ有テ西国ノ哥ナレバ備中国ノ三ムロドナルヘシ山城宇治ニ三室戸トイフアレドヨノフトミユコトハ大和ノ都ニテ備中ノ三ムロドヲヨムベキニアラズ古ヘ故ナク他国ノ地名ヲ設ヨマシフナドナキフナレバイブカシ悔ニ歎ノ戸ハ乃ノ誤ナルベシ

玉匣將見圓山乃狭名蔦佐不寐者遂爾有勝
麻之目　或本歌云玉匣三室戸山乃

ミムロドハ三輪ヲ云ヒ句ニテモ助辞サテズハ心ハ明スヲヨシ乃ヒドノタマヘドモツヒニアハズシテハ堪マジキトモ

在難カラントヲ行ミテ不寐ハ有ガテナレハ

内大臣藤原郷嬭采女安見兒時作歌一首

来女ハ紀ヲ攷ルニ上代ハ御妻ノ類ナリシヲ大津飛鳥ノコロ国ノ郡司ナトノ女兒ヲ入妃ナリ撰取テ御食ノ事ナト仕奉セラルヒトノ氏ニコリ一人ヲ奉ル故ニ采女ノ由紀ニ見ユ

吾者毛也安見兒得有皆人乃得難爾爲云安
見兒衣多利

ワレハモヤヤスミコエタリミナヒトノエガナニストイフヤス

モハ助辞ニテ吾ハヨヘ安見子ハコノ采女ノ名ヘ皆人此采女ヲ思ヒカケ乞共ウケヒカザリシヲワレハコレヲシモエタリトホエリカニヨメリ

父米禪師嬭石川郎女時歌五首

ハ氏ハ名ナリ下ノ三方ノ沙弥モ是ニ同続紀ニ阿弥陀ノ紀四ナド云名モ有シヲ禁ラレシテ三ユレバ足ハ俗人ノ名ヘ

妹之家毛繼而見麻思乎山跡有大島嶺爾家
母有猿尾

一云妹之當繼而毛見武爾
一云家居麻之乎

鏡王女奉和御歌一首　鏡王女又曰額田姫王也

秋山之樹下隱遊水乃吾許曾益目御念從者

内大臣藤原鄕嬭鏡王女時鏡王女嬭

臣歌一首

玉匣覆乎安美開而行者君名者雖有吾名之

惜毛

内大臣藤原鄕報贈鏡王女歌一首

玉匣將見圓山乃狩名蒿佐不寐者遂爾有勝
麻之目　或本歌云玉匣三室戸山乃

内大臣藤原鄕娶采女安見兒時作歌一首

吾者毛也安見兒得有皆人乃得難爾爲云安
見兒衣多利

久米禪師嬭石川郎女時歌五首

蔦

○水蔦苅信濃乃真弓吾引者宇真人佐備而不
ナト イハ 松柏ムカモ 篤ハ宮行ノ弓ハ古ヘ男女 信濃ヨリ貢シツレバ宇人ハ紀ニ君子楷紳ノ宇ナドヲシカヨメリサビハスサビミ安サビ翁サビノサビニ用シ
言常將言可聞 良家サテナニ 禪師
石川郎女和奇 イサカルシナヌノ ニ コミヒカズ レ テシヒサル ワザヲ
カトヲルヤリ不言ヲ元暦本ニ不欲ト作カタマサレリ

蔦

○三蔦苅信濃乃真弓不引爲而強作留行事乎
シルト イハ ナク ニ 左ニ都良絃取波氣ト云モ則弓弦 弦
カクルヲハグルト云ヘバ強ノ字契冲ガ云如ク弦ノ徐ヘ弓ヲ引又人ノツルカタル
ワザヲ知トヲフナン其如ク吾ヲ引見ズシテハイナトイフシヤイヤモ知ベカラズトイフ

知跡言莫君二 郎女
アヅサユミヒカバ ニ ノ ヨラ ドモノキノコロヲ レリ ガテマ カモ

○梓弓引者隨意
久米禪師 禪贈ニ奇 ツ ラフト

梓弓都良絃取
禪師
荷向荷ハ箱ニ納テ紐シテ馬ニ結ツケテ上ル故ニ荷ノ緒ト云ヘリ荷ノヲニモハ荷ノ緒如クニモト
ハ箱ニ納テ紐シテ馬ニ結ツケテ上ル故ニ荷ノ緒ト云ヘリ荷ノヲニモハ荷ノ緒如クニモト

東人之荷向遊乃荷之結爾毛妹情爾乗爾家
アヅマド ノ ノ ニ ノ ヲ ニ モイモガコロニ ノリニ ケ

和

留香問 禪師
イフヲ畧ケリ能流ハ巻十四東歌ニ白雲ノ絶ニシ妹ハアゼ〳〵ロト許々呂ホ
ルヨイフナリ

大伴宿禰娉巨勢郎女時歌一首
ル カ モ

玉葛實不成樹爾波千磐破神曾著常云不成
タマカヅラミ ナラヌ キ ニ ハ チ ハヤブルカミゾ ツクト イ ナラヌ
キ ゴトニ

樹別爾
葛ハ実ナルモノ故ニ次ノ言ヲヨン爲ニ冠ラセタルノミサテ実ノ成ト云マデニイヒカケテ不成ノ不マデハカケヌ類
集中ニ多シ樹トハ葛ノコニ非何ニモアレ実ナル樹ヲ云フ実ナル木ノ実ナラヌハ神ノ領シ主フトイフ諺有
シナリ心ハ女ノサルベキ時ニ男セネバ神ノ依タマヒテツヒニ男ヲエヌゾトヘイフナリ

巨勢郎女報贈歌一首

玉葛花耳開而不成有者誰戀爾有目吾孤悲
タマカヅラハナノミサキテ ナラヌ アルハ タガユヒエ ナ アラメ ワカコ ヒ
ガ モ

念乎
右ノ実ナラズト云ニコヨメテ花ノミ咲テ実ナラヌ如クコトナキハタガウヘノ与アラン我ハ花ノミハ非マコトニ
オモフ 恋オモフ物ヲトヲ〳〵マタタガコヒナラモトモ訓ベシ

明日香清御原宮御宇天皇代 天渟名原瀛
天武天皇 アメノヌナ ハラオキ

蔦　石川郎女和奇　蔦　筵　緒　久米禪師贈答歌　和　葛　渟

○水蔦苅信濃乃真弓吾引者宇真人佐備而不
言常將言可聞　禪師

○三蔦苅信濃乃真弓不引爲而強作留行事乎
知跡言莫君二　郎女

○梓弓引者隨意依目友後心乎知勝奴鴨　郎女

○梓弓都良絃取波氣引人者後心乎知人曾引
禪師

東人之荷向遊乃荷之結爾毛妹情爾乗爾家
留香問　禪師

大伴宿禰娉巨勢郎女時歌一首

玉葛實不成樹爾波千磐破神曾著常云不成
樹別爾

巨勢郎女報贈歌一首

玉葛花耳開而不成有者誰戀爾有目吾孤悲
念乎

明日香清御原宮御宇天皇代　天渟名原瀛

ハバ　ウテビトサビテイ

引者字真人佐備而不

師ノ字ナドヲレカヨメリサビハスサビミ安サビ翁サビノサビニ同シ古ヘ思ヒ人ノ後心ヲ引ヲ爲而強作留行事乎

カヲ人ノ心ナラヒニテ吾ヲタグニ非ト云イヒ

カヲ不言ヲ元暦本ニ不欲ト作ルカタマサレリ

カズ　レテシヒサル　ワザヲ

波氣ト云モ則ち弦ヲ

カクルヲハグルト云ヘバ強ク京契冲カ云如ク弦ノ徐ヘ弓ヲ引又人ノツルカクワザヲ知ラ子ナレ其如ク吾ヲ引見ズシテハイナトイハシヤ

ナヤモ知ベカラズトイフ

人者後心乎知人曾引

ヒトハ　ノチノコヽロヲ　シル　ヒトゾ　ヒク

奉ル調物ヲ荷向ト云足ハ東国ヨリ京ノガキニツキテヨメル ノミテ上ル故ニ荷ノ緒ト云ヒ兼ト云ヘ荷ノヲニモハ荷ノ緒如クニモト

ヲニ　モイモガヨロニ　ノリニケ

足結爾毛妹情爾乗爾家

引ハミ〳〵ハ引ニシタガヒテ〳〵ヨラメドモハ古今集ニヒケバモトスエワガカタヘヨルコリマサレナドヨメルフクラニヨルト云フタノシミリガテヌハ知ガタキヽガテトヲモガテヌトイフモ古ヘ同ジ用ニテアタナクニトイヒテマタニニトヲヱニナルガ如シ彼心ハ実ハヒガヨルベキ心アレドモノチイカヾアラシトイヒカタムルヽ

ツラヲハ蔓綿ヱヒカヽルタグヒノ物ヲ

サテ右ノ後心ヲ知カヌルトヲニ答フルヽ

ルテ蔓トスフ草ノ蔓モ其ヒトツヽ宣長

女時歌一首

ハヤブルカミゾツクト　イナラメ

磐破神曾著常云不成

能流ハ巻十四東歌ニ白雲ノ絶ニシ妹ハアゼヽロト許々呂ホ婆カナシケトヲモテミレバ妹ガ丁ノ常ニ吾心ノウヘニ在

〳〵ぬ柿ホ〳〵ふ〳〵ものろしゑもち〳〵

ハ　タガコヒエナ　アラメ　ワカコヒ

首

者誰戀爾有目吾孤慈

ハ　タガコヒエナ　アラメ　ワカコヒ

天武天皇

天下　皇代　アメノヌナ　ハラキ

天停名原瀛

ハ花ノミハ非マコトニ飽ベシ

製

真人天皇

天皇賜藤原夫人御歌一首 藤原大臣女氷上姫但馬皇女母

ワカサト ニ オホユキ フレリ ヲホハラノ フリニシ サトニ フラマクノハ

○吾里爾大雪落有大原乃古爾之郷爾落巻者

ノチ

後

大原ハ続紀ニ紀伊ヘ幸路ヲシルセシニ泊瀬ト小治田ノ間ニ大原ト云所ニ今モ大原村有リ即藤原トモイヘリ藤原氏ノ本居ナリソコニ夫人ノ下リ居タル時ノコトナルヘシコヽモトニハ雪多ク フリテカモシロシ大原ワタリヘハ後ニコソフラメト戯ヨミ玉ヘルナリ

藤原夫人奉和歌一首

○吾岡之於可美爾言而令落雪之摧之彼所爾

フラセタル ユキノ クダケシ フラヒツル

塵家武

霊龍ハ雨雪ヲシタガフル龍神ソレニカホセテフラセタリトヽクダケシノシハ過去ノ言ヒ御戯ヲカテ戯コタヘ奉玉ヘリ

藤原宮御宇天皇代 高天原廣野姫天皇トアルヘシ

天皇諡曰持統天皇

大津皇子竊下於伊勢神宮上來時大伯皇

女御作歌二首 代補 天武紀太田皇女ヲ納テ大来皇女ト大津皇子ヲ生玉フトアレバ御ハラカラ故ニ大事ヲカホレタリ帝祈且御物斎玉ニモ告玉フトテ下リ玉ヒツラン大伯皇女ハ天武天皇白鳳三年ニ斎王ニ立玉ヒ持統奉朱鳥元年ニ乃京ヒ玉ヘリ

ワガセコシヤマトヘヤルトサヨフケテアカツキツユニワガタチヌレシ

○吾勢枯乎倭邊遣登佐夜深而雞鳴露爾吾立

大津皇子ハ御弟ナレドカタヨリ契トメヲフリ倒ル曉ハアカトキトヨカ本語ヘ

所霑之

タリユケド ユキスギカタキ アキヤマヲ イカデカキミガ ヒトリコエ ムカ

○二人行杼去過難寸秋山乎如何君之獨越武

二人越ヌトモ秋ハ物サビシキヲトヽ次二首ノ調ベノイトカシクキヲ元ハ大事ヲカホスヨリノ御別ナレバナルベシ

大津皇子贈石川郎女御歌一首

アシヒキノ ヤマノシヅクニ イモニツト ワレタチヌレヌ ヤマノシヅクニ

○是日木乃山之四付二妹待跡吾立所沾山之

四附二

知

石川郎女奉和歌一首

○吾乎待跡君之沾計武足日木能山之四附二成益物乎（アヲヲ　マツト　キミガ　ヌレケム　アシビキノヤマノシヅクニ　ナラマシモノヲ　アハマシモノヲ）

大津皇子竊婚石川女郎時津守連通占露其事皇子御作歌一首

（続紀津守連通摂陽道勝ヒタリトテ従五位下ヲ授ケ皇子賜ハルコトミエタ）

（キホブ子ノ　ツ　モリ　ウラ　ニ　ツケム　トハ　マサシニ　シリテワガ）

○大船之津守之占爾將告登波益爲爾知而我二人宿之（フタリ　子　シ）

大船ノ枕詞益ハ借字ニテ正ナリサレドモ多ノ言例ナシ宣長云巻十四ムサシノウラヘカタヤキ麻左氐ニモトアレバコレノ爲ハ氐ノ誤ナラントあり翁ハマサテハ正定ノ意ナラントあキ心明ケシ

日並ヲ知字有シ目録ニ贈ノ字ナキヲヨシトス今本註ニ大名児三字ヲ脱セリ皇子ハ天武天皇ノ皇子御母鸕野讃良皇女

日並皇子尊贈賜石川女郎御歌一首（女郎字日大名児）

姫　女御

（オホナ　ゴヲヲエカタノ　ベ　ニ　カルカヤノ　ツカノアヒダ　モワレ　ワスレ　メヤ）

○大名兒彼方野邊爾苅草乃束間毛吾忘目八

大名児ハ女郎ノ字ヘト註セレド是ハ其サヲアガメアノ玉ヘナル束ノ間ハ一握ノ間ニテ暫ノ間トルベシ二三ノ句ハワカノ間トカヒ料ニテ初句ヨリ末句ヘカヽルナリ

幸于吉野宮時弓削皇子贈與額田王歌一首

（持統天皇吉野ノ及ノ幸多ケレバイワトモカガタシラ削皇子ハ長宣子ノ御序ナリ）

（イニシヘニ　コフル　トリカモユ　ツルハノニ　サノ　ウヘヨリナキワタリユ）

○古爾戀流鳥鴨弓絃葉乃三井能上從鳴渡遊

（ク　タ）

御井ハ秋津ノ離宮ノ邊ニ在ナルベシ古ニ恋ルトハ古ヲ恋ルヽ妹ニコヒトカモ妹ヲ恋ルヲカ例ナリ此鳥ハ郭公ヲイフ御父帝ノ暫入セカハシマシ名所ナレバカノ姫王モ同ジタ恋挙ラレシフユニ贈ラフナルベシ

（イニシヘニ　コフラ　ム　トリハ　ホトヽギス　ケダシナキシ　ワガコフルゴト）

○古爾戀良武鳥者霍公鳥蓋哉鳴之吾戀流其

（ト）騰

其鳥ハホトヽギスナラントオシハカリテサテワガ如ク恋鳴シヤトシケダシハ集中ケタシクモトモヨリ若トカヲヒ

是ハ深山ノ古木ニ生ル日蔭ノ了ヽ

從吉野折取蘿生松柯遣時額田王奉入歌一首

玉ハホムル辭又ハミゲクマロラカナル篠ヲ玉ザヽト云如ク老タル松ノ葉ハ圓ラカニシゲヽレバ玉松トイフカ宣長云玉ハ山ノ誤也集中山ヲ玉ニ誤レル了多シ玉松ト云ル例ナシトイヘリサモ有ヘシ　メヅル心也カモハ歎辭　君ハ弓削皇子ヲサスヘシ通ハクハ通フヲ延云フ松ニソヘテノ玉フ言有シヲ

三吉野乃玉松之枝者波思吉香聞君之御言乎持而加欲波久

ミヨシノノタマツガエハハシキカモキミガミコトヲモチテカヨハク

即松ノ持通フトイヒナシ玉ヘリ

此三人ノ皇子皇女御母ヲ異ニセル御ハラカラ也續紀和銅元年六月三品但馬内親王薨トミユ

但馬皇女在高市皇子宮時思穗積皇子御作歌一首

巻十二是ト同シ末五句有テ三ノ句片縁ト書ルハコヽモカタヨリトヨメリ巻十七秋田ノ穗牟伎ナルアレバホムケト訓ハワロシ稲ノ穗ハ一カタニヨリナビケバ譬フヨリナミハヨリナニトイフ也古言ニ哀ヨナトモカ言ヒ痛クイヒサワガルヽトモナリ

秋田之穗向乃所縁異所縁君爾因奈名事痛有登母

アキノタノホムケノヨルカタヨリニキミニヨリナヽコチタカリトモ

勅穗積皇子遣近江志賀山寺時但馬皇女御作歌一首

志賀山寺ハ天智天皇ノ建玉ヘル崇福寺也此ツヾキノ哥ヲトモヲ思フニカリソメニワカハサルヽニハアラデ右ノ了アラハレタルニ依テ此寺ヘウツシテ法師ニ為シ玉ハントナルベシ

遺居而戀管不有者追及武道之阿回爾標結吾勢

オクレヰテコヒツヽアラズハオヒユカムミチノクマワニシメユヘワガセ

オヒシカンハ追ナヨベシクマワハ道ノ隈々ヲ云シメハ山路ナドニハ先行人ノシルベノ物ヲユフヲ木ナドニ立テ縄引ワタシテ標トスルモアリ事ニヨリテ心得ベシ

但馬皇女在高市皇子宮時竊接穗積皇子事既形而御作歌一首

人ゴトハ人言ニテ言痛ト重ネ云リ母ハ我ノ誤ニテオノガヨニト有シカアサ川ワタルハ巻四ヨノ中ノヲトメニシアラバ五ニ波イモセノ川ワタリカネメヤナド有テ男女相逢ヲ川ヲワタルニタトヘ外ニモアリコレハ十廿ハ浅キ心ニテ人言ニヨリ中絶ユ中ナル哉トナゲキ玉ヘルカ又ハコトアラハレシニヨリテ

人事乎繁美許知痛美已母世爾未渡朝川渡

ヒトゴトヲシゲミコチタミオノモヨニイマダワタラヌアサカハワタル

道行玉フノアリテ皇女ノナレヌワビシサニアヒヨミ玉ヘルカ宣長云已母世尓ノ尓ハ川カ河カ水ノ誤ニテイモセ川ナラジカト云リナホ考フベシ

舍人皇子御歌一首

天武天皇ノ皇子也

贈與舍人娘子

トネリノ

ニスラヲヤ　カタコヒ　セム　ト　ナゲトモシコノ　マスラ　ク　ナホコヒニ
大夫哉片戀將爲跡嘆友鬼乃益ト雄尚戀ニ
ケリ
男ミヒキ身トシテ相ヲ思ハス人ヲ恋ムモカト思ヒ歎ケドモエ思ヒヤマシズトナリシコハ紀ニ醜女ヲ志古来ト訓テ集中鬼醜相通テ畳リ鬼之四隅手或ハ鬼乃志許草ナドノ鬼ミナシコト訓ベシコハ自ラ罵テ云詞ナリナホコヒニケリハ恋セシト思ヘドモ多恋ハルトナリ

家里

舍人娘子奉和歌一首
ニミノ句カヤカナラズ古点マスラヲノコノコフシコソトアレバモト亂ハ礼ト有ケムカコフシコソハ恋シバコソノ

ナゲキツヽニスラヲノコノコフレコソワカユフカミノヒヂテヌレク
歎管大夫之戀亂許曾吾髮結乃漬而奴禮計
ニスラヲ　コヒ　ミダ　モトユヒノ署
レ
禮
バ署ケムユヒクル髮ヲ則モトユヒトモ云ヒヂハ集中湿漬ト書テヒヅチトヨメルヲ思フニヒヂツキヲ約テヒヅチトモ云ルニ本ハ水ニワキテヌルヽヨリ出タル詞考ノ別記ニ委シ又シケシハ炊下ニ多氣溶奴礼トヨメル同シク髮ノスルヽトカノヅカラ解ルヲ云鼻ヒ紐解ナドル類ニテ人ニ恋ラルレバ髮ノ自ラ解ルト云ル諺ノアリテヨメルナラム

弓削皇子思紀皇女御歌四首
穂積皇女ノ御ハカラナリ

ユゲノ　ヨシノガハコクセノハヤミシバラクモタユルコトナクアリコセ
芳野河逝瀬之早見須臾毛不通事無有巨勢
ヌカモ　一二ノ句序ヘアリコセヌアレコフト同ク願フ意シカクアレカシトヨヲカクアラヌカト平語ニイフニ
濃香毛
ヒトシ不通ヲタユルトヨムハワロシ

ワギモコニコヒツヽアラスバアキハギノサキテチリヌルハナ
吾妹兒爾戀乍不有者秋芽之咲而散去流花
エナアラマシヲ　カクコトワアラヨリハ死ナムモノヲトイフヲ咲ノチルニヨメリ
爾有猿尾
ユフサルバシホミチキナムスミノエノアサカノウラニダマモ
暮去者塩滿來奈武住吉乃淺香乃浦爾玉藻
カリテナ　陸ハ喩哥ナリ女ヲ玉藻ニタトヘテコト故ナキウチニ妹ヲワガ得バヤト云意ナリ刈手名ハカリテムト云ニ同ジ
苅手名
オホブネノハツルトマリノケユタヒニモノオモヒヤセヌヒト
大船之泊流登麻里能絶多日二物念痩奴人
ノコユエニ　本序ナリ舟ノユキツキタルヲハツルトヒトシクトマリトモ云リ大舟ハ水ニ浮ミテユラ〳〵動クサマヲ物思フ心ニ譬タリ見ハイヌ得ヌホドナレバタユタフトモ云リ大舟ハ水ニ浮ミテユラ〳〵動クサマヲ物思フ心ニ譬タリ見ハイヌ得ヌホドナレバ他ノ兒トカヽレル人ノ子ユヱニトハ人ノ子ナルモノヲノ意ナリ
能兒故爾

ミカタノサヒメトミテソノオミイノチ
三方沙彌娶園臣生羽之女未經幾時卧病
ヤミフセリキテ
作歌三首
三方氏沙弥ハ名歌臥病ノ下作ノ序ハ時ノ誤ナルベシ沙弥ハ人ノ哥ニヨマレシバナリ
ノケバヽクヌシバラ約ニナリアブラツキメデタキ髮ノクロヌシバヌルト延金レタル意ニハ長キ
ニナリサテ童ミテ童ナルヲ髮ヲ髮ヲデシテ無フヨロナイハミトカベケレバコノゴロ病ニ臥テ行ヲ見ズ
間ニ髮アゲシツラムカユヒキトあるモナリ　楫ハ人ノ入ハ上ノ詠ニテカキアゲツラムカナベシト宣長ノ

多氣婆奴禮多香根者長寸妹之髮比來不見

三方沙彌

爾搔入津良武香　三方沙彌

園臣生羽之妻贈河内ハ　元人者皆ト有

人皆者今波長跡多計登雖言君之見師髮亂

有等母　元媛子

橘之蔭履路乃八衢爾物乎曾念妹爾不相而

吉ヘ都ノ大路市ノ衢ナドニ水ヨウヱシ事ト有シニテ雄略紀餅香市邊橘本トイフ巻ニ東ノ市ノ植木ノコタルニヂトヨミアタ大路ニ菜樹ヲ植ラレシ時モアリシナリ十ナマシノ十ハ数ノ多キヲ云詞ニテ衢ノ多キヲ云フコトハ一スヂナラズ思フコトノ多キヲ十アタニイトヘタリコレモ沂弥病ニ臥テ妹ガ家ヘ行ガタキ思ヒヨメルナンベシ

三方沙彌

石川女郎贈大伴宿禰田主歌一首　元昂佐保大納言大伴御行之第二子母曰巨勢朝臣

遊士跡吾者聞流乎屋戸不借吾乎還利於曾

其會集ノ大夫タチヲサスヲタヲシヨト云バ客人ニナメゲナラムシカレバイヅクニモミヤビヲト訓ベキニサテ風流人ヅト聞シ故夜ハ恋テ来ツルヲイタヅラニ歸セシハ心ニブキ風流人ヅト載ル於曾ノ三ハ巻元浦島子哥ニ常世ニ住ベキモノヲツルギヲチナガ心ヲカ於曾ヤ妣君ト云ヒ其長哥ニ世中ノ愚人ト有ヲ

能風流士

北遊士風流士トモニミヤビヲト訓ベキヨシ荷田御風ヲリ古訓タシヨトアレド巻六諸大夫等集ニ左ノ弁ニ云ク宴哥トテウナ帰ノ遠キ渡ヲ遊士ノ遊ブヲミムトナヅサヒブコレトイフ哥ノ左ニ右一首ヲ遊士蓬莱仙媛所作裏縵為風流秀才之士矣ト書リ此遊士風流秀才ハ

大伴田主字曰仲郎容姿佳艶風流秀絶見

人聞者靡不歎息也時有石川女郎自成雙

栖之感恒悲獨守之難意欲寄書未逢良信

爰作方便而似賤嫗巳提鍋子而到寢側哽

音跼足叩戸諮曰東隣貧女將取火來矣於

是仲郎暗裏非識冒隱之形慮外不堪拘接

之計任念取火就跡歸去也明後女郎既恥

自媒之可愧復恨心契之弗果因作斯歌以
贈諺戯焉

大伴宿禰田主報贈歌一首

遊士爾吾者有家里屋戸不借令還吾曽風流
士者有

同石川女郎更贈大伴田主中郎歌一首

吾聞之耳爾好似葦若未乃足痛吾勢勤多扶
倍思

右依中郎足疾贈此歌問訊也

文津皇子宮侍石川女郎贈大伴宿禰宿奈
麿歌一首

古之堀爾為而也如此許戀爾將沉如手童兒
一云戀乎大爾忍金手武多和郎波乃如

長皇子與皇弟御歌一首

冊生乃河瀬者不渡而由久遊久登戀痛吾弟
乞通來禰

作　咲　在　波

柿本朝臣人麿從石見國別妻上來時歌二首 幷短歌

石見乃海角乃浦回乎浦無等人社見良目滷
無等一云礒人社見良目能嘆八師浦者無友
縱畫屋師滷者一云礒者無鞆鯨魚取海邊乎指而
和多豆乃荒礒乃上爾香青生玉藻息津藻朝
羽振風社依米夕羽振流浪社來縁浪之共彼
縁此依玉藻成依宿之妹乎一云渡之彼余露
霜乃置而之來者此道乃八十隈毎萬段顧爲
騰彌遠爾里者放奴益高爾山毛越來奴夏草
之念之奈要而志怒布良武妹之門將見靡此

作　咲　在　波

柿本朝臣人麿從石見國別妻上來時歌二首并短歌

角の浦ゝ名者多〻有ケれとも此ところ〻ゝ角の浦ゝ多〻有ケれとも石見の国ゝ角の浦ゝ多〻有ケれとも寄ゝ所ゝ

石見乃海角乃浦回乎浦無等人社見良目

無等一云無登人社見良目能嘆八師浦者無友

縱畫屋師滷者一云無者礒鞆鯨魚取海邊乎指而

和多豆乃荒礒乃上爾香青生玉藻息津藻朝

石見温泉郡

羽振風社依米夕羽振流浪社來縁浪之共彼

縁此依玉藻成依宿之妹乎一云渡之彼余露

文

霜乃置而之來者此道乃八十隈毎萬段顧爲

騰彌遠爾里者放奴益高爾山毛越來奴夏草

之念之奈要而志怒布良武妹之門將見靡此

山

反歌

コヲセハ子ニ通ヘリ上ニ吾ハモヤナドロミ木々ヨリトロヨリ次ノ四ノ句ヲ隔テ〻妹見ツラムカトウドクナリ人倉道ニ尚テカヘリ見シテ振袖ヲ妹ハ高角山ニ登リテ見送リツラムカト〉

石見乃也高角山之木際從我振袖乎妹見都

良武香

小竹之葉者三山毛清爾亂友吾者妹思別來

是ハ人麿朝集使ニノカリニ上ルベシシハ十月ノ初頃ニ上ベキヽ人倉ノ妻ノ別記ニ委レコレハ嬪妻ニハアラサルベシ

紀ニアラフノ海ヲ河内ノ海ト訓ル角浦ハ和名抄石見国那賀郡都農ト有リ浦マハ浦ノメグリヲ浦ハ袁ナクレドモノレヲ略キテナケドモト訓ハ例ノ人コヽロウメハ見ルウメノ実ノ浮ナレトハ北海ニ潮ノ満テノウラハシホヒカノナキし或本ノ歌ハ無ト有ハハ八ヘカヘズヨシヱヤレハヨシヤトカミテヱトトハ助辭ナリ五湖モ海モ無トモヨシヤ我ハ多クシ妹有トカミヘハヲコヽハイヅ次ニ句ヲ隔テ依宿シ妹トカミノ知ウセタリ女ヨリ初ル此時ヲ此時ヲ思トヨリ十句隔ハ其海ノウラヲテ妹ガコヽロニ帰ル

在　波

和多豆乃荒礒乃上爾香青生玉藻息津藻朝
羽振風社依米夕羽振流浪社来縁浪之共彼
縁此依玉藻成依宿之妹乎 一云 波之伎余思妹之手本乎 露

文

霜乃置而之来者此道乃八十隈毎萬段顧為
騰彌遠爾里者放奴益高爾山毛越来奴夏草
之念之奈要而志怒布良武妹之門将見靡此
山

反歌

石見乃也高角山之木際従我振袖乎妹見都
コノセハ手ニ通ヘリ上ニ吾ハモヤナドヽ云ニ同シ木ノ間ヨリト云ヨリ次ノ四ノ句ヲ隔テヽ妹見ツラムカトツヾクナリ人麿道ニ出テカヘリ見シテ振袖ヲ妹ハ高角山ニ登リテ見送リツラムカト也
良武香

小竹之葉者三山毛清爾亂友吾者妹思別来

是ハ人麿朝集使ニテノボリニ上リタルベシソレハ十一月百ノ官舎ニアフナレバ石見ヨリ九月ノ末十
月ノ初頃ニユクベキ也人麿ノ妻ノ事ハ考ノ別記ニ委シコレハ嫡妻ニハアラザルベシ
紀ニアフノ海ヲ阿布能美トアレバウミノウヲ略キ訓リ角ノ浦ハ和名抄石見国那賀
郡都農ト有リ浦マハ浦ノメグリヲ云浦ハ稟キテ納江ナリ角ノ浦ニハ古ヘヨキ湊ナカリシナルベシ
ナケレドモノレヲ略キテナケドモト訓ハ例ノ人コソ見ルラメハ見ルラメノ略潟ナシトハ北海ニハ潮ノ
満干ノワカチナケレバシホヒカタノナキ也或本ノ磯ハ無トアルハヨカラズヨシヱヤシハヨシヤト云ニテヱヤシハ
助辞ナリ浦モ潟モ無トモヨシヤ我ハ愛ル妹有トイフ心ヲコヽニハイハズ次ニ句ヲ隔テヽ依宿
シ妹ト云ニテ知ラセタリイサナトリ此海ヲ云ヨリ十句餘ハ其海ノ有様ヲ云テ妹ガアタリヲ云ン序トス
和多豆ハ宮本ニ石見國那賀郡ノ海邊ニ渡津村トテ今有コヽナルベシサレバワタヅノト四言ノ句也
或本ノ多田津トアルハ和多豆ノ誤トミユ本ナルベシト云リアリソハアライソ
ヲ約メイフナリ香青生ハカハ発語集中カ黒キナドノカノ如シ玉モカキツモハ同シ物ナルヲ羽ノアヤニ云ヘリ
鳥ハ偶宮ニテ沖ツ朝ハフルニテ玉藻ハ朝ノ風波ニコソヨスベケレトシ羽振ハ風波ノイフヲ鳥ノ羽振ヲ譬ヘ云ヘリ
巻四風ノ霧モ羽振浪ノ巻十八ニ奇羽振鶴ハ鳴ドモ古事記ニ鳥鶴ノ奇羽擧来人ナド天ノ羽ノ
特来リシ宮ニ振浪此礼振風比礼ナド云テモ有波ノ去来浪トモ云ト云ヘリ巻十五君ガ年歩ノエロマヽ
モノヲ思ハセモ多シ時雨ノ葉ニ玉モナス寄ハ如シヨリネシイモヲハ玉モノ如クナビキアヒ寝シ妹ヲトモ
或本ノハシ中ヨシハ寄ル羽ノ振羽オキテシ云ヘハ城ヲ擇亞テシ先ヨリ下ハ皆陸路ノサマヽ
ヰタチテ行ハ同シスベテ行道ノサマヲ云中ニ別ヲ悲ム情アリ益高ニ室妻云スベテ益ハイヤトヨムベシ
卷千ニコゾ見ベシ云ヘアヒ見シ嬬ハ巻四年ノサカル巻七サホ川ニテ巻河ノ邊ル巻十二チカクナレバ云ニコモ
エ悪ノ巻マサリナムコレライヤト訓リト云リ此巻ニ云ハマシクカニトテモ有ベケレドイヤトヨマズシテカナハヌトコロ
多シ夏草ノ様田カマヒシテエニシハナヨミカニラウナタレテ物思フサマヲ云ヘニヌブハ慕ヘシバフカキヨリシスヾト
云リナビケ秋山ノ巻廿三靡ケト人ハフメドモカクヨレト人ハ御ケドモ妙ナキ山ノオキツ山ニ云々山ト云ニ同シ
キニヒ卯ノ花モ妙ナリニヲササナクネカフ心ヲヨメリ巻十二アレキ山ノ林コトバアスヨリハナビキタレコノ婦ガアタリ
ニムナドテ云モ見ヨトレル歟

禮婆（レバ）

サヤニハ神武紀闘喧榎之響ヲ左柳霓利奈離ト有如ノ小篠風ニ鳴ル音ヲヨリ乱ドモヲサワゲドモト訓ハ巻十二松浦船乱堀江ノ乱ヲサワグト訓ル三同シ越ル山路ノカシマヒキミモ紗ブ吾ハ別レシ妹ヲ恋ルトナリ巻二十佐左賀波乃サヤグ霜夜トヨメレバ初句サヤガハトモ訓ベシ

或本反歌

石見爾有高角山乃木間從文吾袂振乎妹見（イハミニナルタカツノヤマノコノマニモワカソテフルラムイモミケムカモ）

ワスサハフコトサヘグ枕詞イクリ恵神紀由羅ノトナカノ異句離ヲ紋月本紀句離謂石也異助語也ト有深シルハ宮式ノ諸国ノ貢物ニ深海松長海松ノ有海庭ニ生ヲ深海松ト云カ玉藻ハ蘇クト云料深シルハ深メテト云料ヘ

サヌルハ発語ハフツタノ枕詞別シクレバハヌル夜ハイブベクモナクテ別ルトイヘハ国ニテ逢初シ妹ト冥ニ依羅娘子ナラヌ

明ラケシキモムカフハ心トイフ冠ラセル枕詞ナリ冠詩考ニモラサレタリ大舟ノ枕詞渡山ハ府ヨリ東北八里ノ所ニ在ト云リ散ノマガヒニシ紅葉散カフマギシ三妹ガフル神ノサヤカニモエヌ〳〵ツマゴモル枕詞屋上山モ渡山ト同ホド所トヨリサテ府ヨ立ヨテ此山遠カラヌ所ニ宿リテヨメルナベシワタラフ月ハカメブク月ヨ有妹ガアメノ山ニ隠ルミヨシサヲ月ノ雲隠ハミソヘテヨルノミニテ此月ハ実ノ景物ニアラズ屋上ノ山ノ切テ隠シクシバト云ヘツヒケテ心得ベシ月ノ枕詞入日サシヌレハヌレババ暮ケリ前ニモ此例出ル手リテ除思ヒテサル時ニ手ヌレノ枕詞そハ夜ノモノヲ云同マスラヲトカモヒ示コリテ在シ吾モ下ニカネシ衣ノ神ニテ泪ニヌレトホリシトナリ

夜者幾毛不有延都多乃別之來者肝向心乎痛念乍顧爲騰大舟之渡乃山之黄葉乃散之亂爾妹袖清爾毛不見嬬隱有屋上乃山乃自雲間渡相月乃雖惜隱比來者天傳入日刺奴禮大夫跡念有吾毛敷妙乃衣袖者通而沾奴

（ヨハイクハクモアラズハフツタノワカレニクレバキモムカフココロヲ）（イタミオモヒツヽカヘリミスレトオホブネノワタリノヤマノモミチハノチリノ）（ミガヒニイモガツデサヤニモミエズツマゴモルヤカミニ）（ヤマノクモマヨリワタラフツキノヨレバカクロヒクレバアマヅタフイリ）（ヒサシヌレマスラヲトオモヘルワレモミキタヘノコロモノシデハトホリ）

反歌二首

青駒之足搔乎速雲居曽妹之當乎過而來計類

（アヲゴマノアガキヲハヤミクモヰニソイモガアタリヲスギテキニケル）

一云當者隱來計留

（アガキハ馬ハ足ニテ土ヲカクガ如ノフメバミカヲフ巻三赤駒ノアガキハヤクハ〳〵雲ノ中ハ必遠クテ見モノ故遠キニ云）（アタリ）（ヲ）（ケル）

彩色ヲコヽモ青ハ赤ノ誤ナラムカ

禮婆（レバ）　サヤニハ神武紀闘喧擾之響ヲ左柳霓利奈離ト有如ノ小篠風ニ鳴ル音ヲヨリ乱ドモヲサワゲドモト訓ハ巻十二松浦船乱堀江ノ乱ヲサワグト訓ルニ同シ越ル山路ノカレマシキニモ紗ズ吾ハ別レシ妹ヲ恋ルトナリ巻二十佐左賀波乃サヤグ霜夜トヨメレバ初句サヤガハトモ訓ベシ

或本反歌

石見爾有（イハミナルタカツノヤマニノ）高角山乃（コノヤマユモワカ）木間從文（ソテクルラ）吾袂振乎（イモミ）妹見（ケムカモ）監鴨

角鄣經石見之海乃言佐敝久辛乃埼有伊久（ツノサハフイハミノウミノコトサヘグカラノサキナルイク）里爾曾深海松生流荒磯爾曾玉藻者生流玉（リニゾフカミルオフルアライソニゾタマモハキフルタマ）藻成靡寐之兒乎深海松乃深目手思騰左宿（モナスナビキネシコヲフカミルノフカメテオモフドサヌル）夜者幾毛不有延都多乃別之來者肝向心乎（ヨハイクバクモアラズハフツタノワカレシクレバキモムカフコヽロヲ）痛念乍顧爲騰大舟之渡乃山之黄葉乃散之（イタミオモヒツヽカヘリミスレトオホブネノワタリノヤマノモミチノ）亂爾妹袖清爾毛不見嬬隱有屋上乃一云室上山（ミダレニイモガソデサヤニモミエズツマゴモルヤカミノ）山乃自雲間渡相月乃雖惜隱比來者天傳入（ヤマノクモマヨリワタラフツキノヲシケドモカクロヒクレバアマヅタフイリ）日刺奴禮大夫跡念有吾毛敷妙乃衣袖者通（ヒサレヌレマスラヲトオモヘルワレモシキタヘノコロモノソデハトホリ）而沾奴（テヌレヌ）

反歌二首

青駒之足搔乎速雲居曾妹之當乎過而來計（アヲゴマノアガキヲハヤミクモヰニソイモガアタリヲスギテキニケル）類

一云當者（アタリ）　雲ノ井ルハ必遠クテ見モノ故遠キニ云

隱來計留（カクリ）　彩法ニコヽモ青ハ赤ノ誤ナラムカ

秋山爾落黄葉須臾者勿散亂曽妹之當將見

一云知里勿亂曽　千里ニ乱ルナカレトヲモヒカクヨリ集中暫ノヲシマラノシマシクナドカ仮字ガキアリ

或本歌一首并短歌

石見之海津乃浦乎無美浦無跡人社見良目

滷無跡人社見良目吉咲八師浦者雖無縱恵

夜思滷者雖無勇魚取海邊乎指而柔田津乃

荒礒之上爾蚊青生玉藻息都藻明來者浪已

曽來依夕去者風已曽來依浪之共彼依此依

玉藻成靡吾宿之敷妙之妹之手本乎露霜乃

置而之來者此道之八十隈毎萬段顧雖爲彌

遠爾里放來奴益高爾山毛越來奴早敷屋師

吾嬬乃兒我夏草乃思志萎而將嘆角里將見

靡此山

反歌

石見之海打歌山乃木際從吾振袖乎妹將見

香

コノ打歌山ヲウツクヤマトカナヅケルドイトヨシナシ打歌ハタカノカガキミノタカツキマト訓ベキナリ初句石見ノ海ト有モ誤リトシテ長哥短哥トモニ或本ハトラレヌ

時作　年　御作

右歌體雖同句句相替因此重載

柿本朝臣人麿妻依羅娘子與人麿相別歌

一首

勿念跡君者雖言相時何時跡知而加吾不戀

有乎

有乎ハ有年ノ誤レルヨト明ラケシ
「柩ヲ引ク哥ノ名目ヲ借タルノミニテ後人集ノ哀傷ナリ

有間皇子自傷結松歌

作　作　未詳ノミ字紛タリトミユ

磐白乃濱松之枝乎引結真幸有者亦還見武

家有者笥爾盛飯乎草枕旅爾之有者椎之葉

爾盛

和名抄笥和名計蒙食器也武烈紀影姫ムすこの物ノ名ナリ
飯笥一合ヲ一部盛ル間笥ナドアリ今モ杉ノ葉
小枝ヲ折カテモリツラム椎ハ葉ノコマカニシケクテ手ラカナヒバカリソメ物ヲモリツヘキモノナリ

長忌寸意吉麿見結松哀咽歌二首

磐代乃岸之松枝將結人者反而復將見鴨

磐代乃野中爾立有結松情毛不解古所念

未詳

皇子ノ御魂ノ結枝ヲ又見ニヒケムカトイフナリ
結ブトヨリトケズトヨリコノ松結バレナカラ生立テコノ時マデモ有シナルベシ

意吉麿ハ文武天皇ノ御時人ニ後ナレド事次デ以コヽニセタリ

山上臣憶良追和歌一首

憶良ハ意吉麿ヨリ後ナリ和ハコタヘノミアラズ擬フトヨカゴトシ

時作　年　御作

右歌體雖同句句相替因此重載

柿本朝臣人麿妻依羅娘子與人麿相別歌一首

勿念跡（オモフナト）君（キミ）者（ハ）雖（イフドモ）言（アヘム）相時（トキ）何（イツ）時（トシテカ）跡（ナガ）知（シ）而（テ）加（カ）吾（コヒザ）不戀（ラム）

有乎（有乎ハ有年ノ誤レルコト明ラケシ　柩ヲ引ク哥ノ名目ヲ借ルノミニテ後ノ集ノ哀傷ナリ）

挽歌（カナシミノウタ）

後崗本宮御宇天皇代（ノチノオカモトノ）（弁明）天豐財重日足姫天皇（孝德ノ皇子）

有間皇子（アリマノ）自傷結松枝歌（ムスビテマツカエラ）二首（磐代已ミ出幸ノ前ニ御哥ノ心明ラカナリ）

作　作　未詳ノ二字紛入タリトミユ

磐白乃濱松之枝乎引結真幸有者亦還見武（イハシロノハママツカエヲヒキムスビマサキアラハマタカヘリミム）

家有者笥盛飯乎草枕旅爾之有者椎之葉（イヘニアレバケニモルイヒヲクサマクラタビニシアレバシヒノハ）

爾盛（ニモル）（和名抄笥和名詩寶食器也武烈紀影姫ノ哥ニ飯笥一合ヲ〻即盛簡笥ナドアリ今モ柿ノ葉ヲ柿ノ葉ニテ強飯ヲ盛リ有カ如ク旅ニテハワニ有アフ椎ノ小枝ヲ柿ノ葉ヲモリツラム椎ハ葉ノコマカニシテクリテ手ヲカナシバカリツメニ物ヲモリウヘキモノナリ）

長忌寸意吉奢見結松哀咽歌二首（ナガノイミキオキヨミ　ミムスビマツカナシミテ）（意吉麿ハ文武天皇ノ御時人ミナ後ナレド事次ノ以コヽニノセタリ）

磐代乃岸之松枝將結人者反而復將見鴨（イハシロノキシノマツエムスビケムヒトハカヘリテマタミケムカモ）

磐代乃野中爾立有結松情毛不解古所念（イハシロノノナカニタテルムスビマツコヽロモトケズムモキモフルヒシオモフ）

未詳（皇子ノ御魂ノ結ビ枝ヲ又見ヨトケムカトイフナリ　結ブトヨリトケズトヨリコノ松結ビナカラ生立テコノ時マデモ有シナルベシ）

山上臣憶良追和歌一首（オヒナヘテ）（憶良ハ意吉麿ヨリ後ナリ和ハコタヘ心ニアラズ擬フトヨカゴトシ）

重載

人麿相別ル歌

ナカ　ワガ　コヒザ
而加吾不戀

日足姫天皇

ヘタカヘリミム

者亦還見武
レバ　シヒノハ

有者椎之葉
理コノタマケハ丸書ノ鎮魂祭ニ有アフ椎ノ如ク旅ニハフヨニ有アフ椎ノ葉ノヘキモノナリ

一首　ミケムカモ

後ナレド事ノ次テ以コヽニノセタリ

復將見鴨
ヤマ　ヒ　キモ　ヤハ

解古所念
イニシヘ　オモ

意吉ノ宮ハ文武天皇ノ御時人ミナ

ハ代已ニ崩辛クモ前ニ御哥ノ心明ラカナリ

孝德紀阿倍倉梯宮女小足媛有馬皇子ヲ生ミ立斎明天皇四年十月天皇紀伊ノ牟漏湯ヘ幸有シ時此皇子叛玉フコト頭シカハ紀伊ヘメシケルニ其国ノ岩代ノ濱ニテ御食マヰル時松ガ枝ヲ結ビテ吾此度幸クアラバ又還見ムト契玉シ御哥ナリ其アクル日藤代ニテ命ウシナヒマヰラセツ哥ノ上御ノ字ヲ脫セリ

トハヘ ワハヘ ヤスアリガヨヒツヽミラメドモヒトコソシラネツ
鳥翔成有我欲比管見良目杼毋人社不知松
ハミルラム
者知良武

翔ハ翔ノ誤ナベシ成ハ如之歟哥ニテハツバサトヨテ即鳥ノコトヽアリガヨヒハ在通ナリ集中ニ多メレ皇子ノ御魂ノ在ヽテ鳥ノ如ク天カケリ通ヒテ見エフラムヲ人ハシラネドモ松ハシリテ有ラムトナリ後中紀鳥御狩羽田ノ之汝妹トアリ

地注可刪去
右件歌等雖不挽柩之時所作准擬歌意
故以載于挽歌類焉

挽哥ノ字ニ泥ミテ只哀傷ノ哥ト心得又モノ〳〵カキカヘメルナリ

大寶元年辛丑幸于紀伊國時見結松歌一首
ノチ ミム トキミガ ムスベルイハシロノコマツガウレシツヤタ
後將見跡若之結有磐代乃子松之字禮乎又
ミケム カモ
將見香聞

ウレハホヲヲ皇子ノ御魂ノ又見マシケムカトナリ考ニモハ右ノ意吾ト啓ノ始ノ哥ヲ唱ヘ誤レルヲ後人コヽニ書加ヘシニヤトアリ

近江大津宮御宇天皇代
後天智ト申ス
天命開別天皇

人者縱念息登母玉鬘影爾所見乍不所忘鶴

鳥翔成有我欲比管見良目杼母人社不知松
者知良武

翔ハ翅ノ誤ナベシ或ハ必ズ此哥ニテハツバサトヨテ鄙鳥トカトリ通ヒテ見エフラムヲ人ニシラネドモ松ハシリテ有ラムトナリ履中紀鳥御羽田ノ之浜樹トアリ

右件歌等雖不挽柩之時所作准擬歌意
故以載于挽歌類焉

挽哥ノ字ニ泥ミテ只哀傷ノ哥ト心得又モノ〳〵カキ加ヘタルナリ

大寶元年辛丑幸于紀伊國時見結松歌一首

ノチ ミム トキミガ ムスベル イハシロノコマツガウレヲ ソヒタメ

後將見跡若之結有磐代乃子松之字禮乎又
ミケム カモ ウヒハ未ヲ云 皇子ノ御魂ノ又見マシケムカトナリ考ミモハ右ノ意吉ノ始ノ哥ヲ唱ヘ誤レルヲ後人コヽニ書加ヘシヤトアリ
將見香聞

近江大津宮御宇天皇代　後天智ト申ス　天命開別天皇

天皇聖躬不豫之時太右奉御歌一首
アメノハラ フリサケミレバ オホキミノ チタリシ

天原振放見者大王乃御壽者長久天足有
イノチハ ナガク アマタラシ タリ

一書曰近江天皇聖體不豫御病急時太后
オキミヤマヒケレ オホヒケルトキ

奉獻御歌一首
此一書ハ天原ノ御哥ニツキ丸〳〵サテ左ノ三首ノツヽキ丸〳〵ノ哥ニ天皇ノ御名ヲ誤レルナベシ但シ初ノ哥ヲ青旗ノト人者縱ノ哥ヲ並ベ載タリトヲ今水乱

△コヽニ注ス
アヲバタノ バタノウヘヲ カヨフトハメニハ ミレドモ

青旗乃木旗能上乎賀欲布跡羽目爾者雖視
タヾニ アハヌカモ

直爾不相香裳

右ニ云ルゴトク此端詞ハ青旗ノ御哥ノ前ニ有ベキヽ倭ドヲル御名モ誤テ入シルカ

△天皇崩御之時倭太后御作歌一首
カミアガリテセルトキ

ヒトハ イナモヒヤヽトモ タマカヅラカケ ニ ミエツヽワスラレヌカモ

人者縱念息登母玉蘰影爾所見乍不所忘鶴

社不知松

唯擬歌意

只哀傷ノ哥ト心得又

結松歌一首

字禮乎又

右ノ意吉店ノ始ノ

開別天皇

歌一首

天足有

急時太后

爾者雖視

首

不所忘

天皇其十年九月より不豫十二月崩ましぬ大后ハ則皇后にて天皇の御庶兄古人大兄皇子の
御女倭ノ姫王と申し奉る下獻の字を脱せしの
やりしなるべし振あふぎ見ゆるなり推古紀に吾大きみの隠ますみ天の八十陰いでたゝすみもつを
見れば万代にかくしもがもと斎りをとゞめて天を仰ぎ敬ふしめに天つ御孫の命ゆゑにて
ませバ命もなく天をも仰ぎて天を仰てふさぎなり給ふなるべし 四五の句
もとの訓ハひがことなり宮ちのかくしもあるべし
青旗ハ白旗なり木旗の木ハ小の誤りにて小の発語を用ひたるなり
さハ大殯宮によそふる白旗どもの上に今しも遊ぶかハ見ゆるさせ給へと申し奉る
事なりと歎きまつるなり白旗の事ハ孝徳紀薄葬制に王以下小智以上帷帳に白布を
用ゐよと有巻十三大殿を振さけ見れバ白たへに飾りまつりて内日さす宮の舎人ハ雪穂
の麻衣きれバこれも喪葬令に大政大臣旗二百竿と有るにてしるべき成務紀神
功紀に降人素幡をたてゝ来る事あり死まつりし御所ハ然かも合せ知るべし
仙覚ガ抄常陸風土記を引て葬具儀赤旗青旗交雑とも有るよしあり
玉かづら楢詞宮ちとは山の誤りにて山かづらなり延喜四年引の山かづらかげまくもそうそう
よめるかげハ蘿なり蘿を山かづらといふ故に山かづらかげとも
称ふ楢詞なるよしあしく論へり称ふべきハ雨称ふ見ゆるなり

氏　宮　刀

天皇崩時婦人作歌一首　姓氏未詳

空蟬師神爾不勝者離居而朝嘆君放居而吾

戀

戀

結

加

八隅知之吾期大王乃大御船待可將戀四賀

作　作

嬬之命之トアリケム命之二字脫ヤル二字宣長

乃辛崎

舍人吉年　官本等拾穗序ニ以四字アリ　吾ヲアゴトヨコト前ニ出シガカラサキガ大御船ヲ待恋ウラトイフナリ

大石御歌一首

鯨魚取淡海乃海乎奥放而榜來船邊附而榜來船奥津加伊痛勿波禰曾邊津加伊痛莫波禰曾若草乃嬬之念鳥立

カキサケテハ沖ヲ遠ザカリテ鳥ノ羽ニ附テナリカイハ櫂ヒ志ヘカイトカナヲ一物ルセリカキツカイヘツカイハ沖コグカヂ汀コグカヂヘコノツハ天令ヲサシ給ンナレバ夫ト書ベキヲ志ヘハ言ヲトリテ字ニカハ文例ナリ以鳥ハトノ目並知皇子尊ノ殯時島ノ宮池ノ上ナル放鳥トヨメル如ク放チ飼ニシ王ヒシ鳥ノ萌ヒテ後湖ニ移スカヲ見モヒラヨメルナベシ

石川夫人歌一首

神樂浪乃大山守者爲誰可山爾標結君毛不有國

サヽナミノ枕詞大山ハ御山ナリ大宮近キ山ナレバコトニ山守ヲ置シナリシカハ人ヲ入ラシメシシナリ

天皇崩時婦人作歌一首　姓氏未詳

空蟬師神爾不勝者離居而朝嘆君放居而吾戀君玉有者手爾巻持而衣有者脫時毛無吾戀君曾伎賊乃夜夢所見鶴

天皇大殯之時歌二首

如是有乃豫知勢婆大御船泊之登萬里人標結麻思乎

額田王　宮本并拾穂本ニ此三字アリ

八隅知之吾期大王乃大御船待可將戀四賀乃辛崎

舍人吉年　宮本并拾穂本ニ此四字アリ　吾ヲアゴトヨコト前ニ出シガカラサキガ大御船ヲ待恋ラムトイフナリ

大右御歌一首

鯨魚取淡海乃海乎奥放而榜來船邊附而榜來船奥津加伊痛勿波禰曾邊津加伊痛莫波禰曾若草乃孀之念鳥立

カキサケテ　沖ヲ遠ザカリテ　鳥ヲモ　汀ニ附テナリ　カイハ櫂　ヲ　カイトカヂヲ一物ルセリ　カキツカイヘワカイハ沖コグカヂ　汀コグカヂ　コレノツマハ天皇ヲサシ奉ンナレバ夫ト書ベキヲ　ヲ　ハ言ヨトリテ字ニカハ又例ナリ　以鳥ハ下ノ目並知皇子尊ノ殯時島ノ宮池ノ上ナル放鳥ヲモ如ク故ヲ飼ニシ鳥ヲ　ヒシ鳥ノ萌マレテ後湖ニ移スルヲモラヨメルナルベシ

石川夫人歌一首

神樂浪乃大山守者爲誰可山爾標結君毛不有國

サヽナミノ　ヤマモリハ　タガタメカ　ヤマニ　シメユフキミモ　マサナクニ

サヽナミノ枕詞大山ハ御山ナリ大宮近キ山ナレバコトニ山守ヲ置ルシナリシメハ人ヲ入ラシメシルシナリ

未詳

放居而吾

時毛無吾

萬里人標

將懲四賀

邊附而榜

伊痛莫波

結君毛不

從山科御陵退散之時額田。王作歌一首

八隅知之和期大王之恐也御陵奉仕流山科
ヤスミシシワカオホキミノカシコキミハカツカヘルヤマシナ

乃鏡山爾夜者毛夜之盡晝者毋日之盡哭耳
ノカガミヤマニヨルハモヨノアケヒルハモヒノツクルマニ

呼泣乍在而哉百磯城乃大宮人者去別南
ナキツヽアリテヤモヽシキノオホミヤヒトハユキワカレナム

明日香清御原宮御宇天皇代　天武　天渟中原瀛

真人天皇

天武皇女母額田姫王

十市皇女薨時高市皇子尊御作歌三首

ミヽモロノヤカミノカミスギ　七年四月薨ヲミミ奏ヲフ

三諸之神之神須疑已具耳矣自得見監乍共

○已ノ字ヨリ下十字仮本イクニヨシトをケムヤトモトカナツキテアレドタカタシ異本目。矣一本笑ミ作ル翁ハ已矣乃字
お尺箸ナカラトアリシカ誤レルミイメノミミエツモトナナラムトイハレキナホカヘシ

○三諸モ神山モ神岳ト三輪トミワタリテキユルガ中ニ年ヲスベカラムニ三諸トイフ三輪トツヌルガタシ神ナビノ三室マタ
神奈備山トヨハ邪ルカ故タカラシミヒハコヽハ二ツトモニ三輪カサレドサ神ヒタ仮ナガシテみヽやまト訓レハカボ
ツタナシ本綿ハ穀ノ皮ニサキ本綿麻ナド割ニ用ハ物ヲ薄トス之ヲ二ツニユフヨメテマソトるく或ニキ本綿ヲ
麻ヲ絡ヒメリ紡ヲ作ル本綿ハキモ紡キモ有タ紡キラ紡ケテいけ今ノ紡キニヨス玉ヨリカラミユユシト用シ

○和多形紡ヲ名ヒ多形ハ衣ヲ布ニ織ルトヤシハ返リ字ハ何ニモ書
今有ル山フキニサテ山吹ハ山ヒノ花ホノホリナドニサキタルモノナレバ山水モテ羽ツヤヒ玉ヒリ苔マテヒ山ヒ花ヒ色ノ今ニテ
いたノ如クタヨヤギカハラムトモ思ヒテモ可ニフノミラシホバカヒナシトヨサナクヨミ五ヘヒ儀ハ舞ナドノ様ニテ云ヒシナヒ
タルトるべし巻三ニ多和之芝布キニカスガタラふトヨリト宣ヒリ

○本間作

天皇崩之時太后御作歌一首

崩ヒテ次大后後ニ持統天皇中大

姫

從山科御陵退散之時額田王作歌一首

八隅知之和期大王之恐也御陵奉仕流山科ノ鏡山爾夜者毛夜之盡晝者毋日之盡哭耳呼泣乍在而哉百礒城乃大宮人者去別南

明日香清御原宮御宇天皇代　天武　天淳中原瀛真人天皇

天武皇女額田姫王

十市皇女薨時高市皇子尊御作歌三首

七年四月宮中ニテトミ薨ヌ

三諸之神之神須疑已具耳矣自得見監乍共不寐夜叙多

己亮乃美耳将見管本無

神山之山邊眞蘇木綿短木綿如此耳故爾長等思伎

山振之立儀足山清水酌爾雖行道之白鳴

朱鳥元年九月九日

天皇崩之時太后御作歌一首

朱鳥元年九月清見原宮ニ崩ヲ以太后後ニ持統天皇ト申ス

八隅知之我大王之暮去者召賜良之明來者問賜良志神岳乃山之黄葉乎今日毛鴨問給麻思明日毛鴨召賜萬貴其山乎振放見乍暮

一本問作君

召賜ノ召ハ借字ニテマト〻鴨ベミルゴトニ時ハ冬ノ故ケフモカモ問ヒ給ツ〻ヤコヽロヒ古歌文ハ許ヒ大ヒ喪ニハ細布ベシ

歌一首

仕流山科ノ之盡哭耳

去別南

亭中原瀛

歌三首

見監乍共

管本無

ノミニエニ耳故爾長

シラナク之白鳴

元年九月名目清見原宮ニ
エテ此大后後ニ持統天皇申ス

アナクレバシ之明來者

モトヒタヘハ毛鴨問給

サケミツヽユフ放見乍暮

石賜ノ品ハ借字ニテ見玉フヒ問賜ハイカヽト問玉フヨリ云リ此二ツノ良志ハ常イフトハ異ヘ巻二十大君ノツギテメ大良立タカマトノ野ベミルゴトニホノミシナカユ此良志ト同シ

時ハ少名ヲ改テ雷岳ト呼セ玉ヒシヿ紀ニ見ユ古ヘ雷カヒトノミヲヒヒナレハ雷音トスレモカミ音ト訓シ

ケフモカモ問玉ハヤミ云ヘハカハレヤシテハ問セタマハンモノヲトヘ其山ヲフリサケ見ツヽハ今大后ノ在ヒトノミ見玉ヒ

ツヽアヤニヲミノアヤハアナトイフモ同シク何事ニヲシ切ニ思ヒ歎ク詞ヘ古事記ニ沼河日売ノ歌ニ阿良々ボ

古要文岐詳志ソノ外集中ニ例多シ ウツサビ心スサヤミシキヽ アラタヘノヲヽ アラタヘハ庶人ノ服ニテ令集解ニ

大喪ニハ細布ニ素服ヲシテアレドソノ細布モ大后ノ氏心ヲヒヒ人ノ着ルアラタヘノ如クホヽシテカクノ玉フナン

ヘシ

一本知曰　毛齋唱

サレバアヤニカナシヒアケクレハ　ウラサビ　ウラレアラタヘノ　コロモノ　ソテハ
去者綾哀明來者裏佐備曉荒妙乃衣之袖者
ヒルトキモ　ナシ
乾時文無

以下短歌三首細書

書曰天皇崩之時太上天皇御製歌二首

トモシビヒ　モ　トリテ　ツヽミテ　フクロ　ニハ　イルト　イハス　ヤ　モ　チヽ
燃火物取而裹而福路庭入澄不言八面智男
クモ
雲

青雲ハ白雲ヘサテ雲ノ皇ヲハナルトカヒシリ牟ハモノ該ナルヘシ是ハ后ヲモ臣ヲモカキテ神アガリマセルヲ月星ニハナレテヨソニナリユク雲ニ聲玉ヘリト公羽イハレキ宣長云青雲之白生ハ青天ニアル皇ニ雲ト皇トハナルトニハアラスニツノ雖ハサカリト訓テ月ヲ星モウツリユクヨシホドフレハ皇月モ次第ニウツリユクヲ見タマヒテ崩玉フ月日ホド遠クナリ行ヲ悲ミ玉フト云リコレヲヤガシ

キタ　ヤマ　ニ　タチヒクモノ　アヲクモノ　ホシワカレユキツキモ　ハナレテ
向南山陣雲之青雲之星離去月牟離而

天皇崩之後八年九月九日奉爲御齊會之

イメノチニトナヘクヤヘル
夜夢裏賜御歌一首

アスカノキヨミハラノ　ミヤニアメノシタ　シラシメシヽヤスミシシ
明日香能清御原乃宮爾天下所知食之八隅
シレ　ワガキホキミノタカヒスヒノ
知之吾大王高照日之皇子何方爾所念食可
カミカゼノイセノクニハオキツモナミニシホヲ
神風乃伊勢能國者奥津藻毛靡足波爾塩氣
ノミカヲレルクニヽアヒヲリアヤニトモシキタカヒカル　ヒノ
能味香乎禮流國爾味凝文爾乏寸高照日之
ミコ
御子

藤原宮御宇天皇代　高天原廣野姫天皇

大津皇子薨之後大來皇女從伊勢齊宮上
京之時御作歌二首　朱鳥元年十月十日

二上山ハ若下郡ニアリ

カミカゼノ イセノクニ、モ アラマシヲ ナニ、シカキケム
神風之伊勢能國爾毋有益乎奈何可來計武
キミモ アラナクニ
君毛不有爾

君ハ大津皇子ヲサシ玉ヘリ

ミヤクホリ ワガセシキミ モアラナクニ ナニシカキケム ウマツカレシニ
欲見吾爲君毛不有爾奈何來計武馬疲爾

是モ上三句レサマニテ言ヲカケシ且タレモ古ヘ有シ一ツノ妹ノ馬ツカレ、ニトイヒテ我心身ヲモソ玉ヘリ

移葬大津皇子屍於葛城二上山之時大來
皇女哀傷御作歌二首

ウツソミノ ヒトニ アルワレヤ アスヨリハ フタガミヤマヲ
宇都曾見乃人爾有吾哉從明日者二上山乎

今現ニテ在ワレニテ兄弟トミテヤアラズランドナケキ玉フ、

イモセトワレミム
弟世登吾將見

兄弟ラ云ヒシ山ヲヤ今ハヨスガト思ハヒト云モ相似タリ

イソノウヘニ オフル ツバニ
磯之於爾生流馬酔木

巻七木陰ニコソ妹山有ト人モミ巻三ウツセミノヨノナカハヨソニシテ

フタリヲ ヒラメドミスヤ
乎手折目將令視倍吉

キミカ アリト イハナクニ
君之在常不言爾

馬酔木ハ木瓜也東人ノトミ伝テ馬ノ毒ナリト云ヒトミアヒヒ足ノ病ノ上畧ト中畧ヒ

古ヘハタヾ石ヲイフトモイヘバ此二上山ノ石有アリミ生ル アシビヲ云ホトリノヲウヒ云ハ常ノ六帖ニアセミト有ハ音ノヨヘバヤ、後ニハ

アルハコトモノナベクキコユレトモ字ニナツムフナウレ

不取

右一首今案不似移葬之歌蓋疑從伊勢
神官還京之時路上見花盛傷哀咽作此
歌乎

朝臣

日並皇子尊殯宮之時柿本人麿作
歌一首并短歌

此皇子朱鳥三年四月薨ズレミフ紀ニ見エ草壁皇子尊トモ申セリ天皇ノ外ハ殯宮ヲハセラレネトモ葬ノ後一周御墓仕スル間ヲハ殯ト云シトミエ

アメツチノ ハジメノトキシ ヒサカタノ アマテラスヒルメノ
天地之初時之久堅之天河原爾八百萬千萬
カミノ カミアツマリイマシテカムハカリハカリシ トキニ アマテラスヒルメノ
神之神集集座而神分分之時爾天照日女之
ミコト
命

一云指上天乎波所知食登葦原乃水穂之

國乎天地之依相之極所知行神之命等天雲之八重掩別而一云天雲之神下座奉之高照日之皇子波飛鳥之淨之宮爾神隨太布座而天皇之敷座國等天原石門乎開神上上座奴一云神登座吾王皇子之命乃天下所知食世尒之可婆

者春花之貴在等望月乃滿波之計武跡天下一云食國四方之人乃大船之思憑而天水仰而待爾何方爾御念食可由縁母無真弓乃崗爾宮

柱太布座御在香乎高知座而明言爾御言不御問日月之數多成塗其故皇子之宮人行方不知毛

一云刺竹之皇子宮人歸邊不知爾為

反歌二首

久堅乃天見如久仰見之皇子乃御門之荒巻惜毛

皇子ノ薨ノコトヲ月ニタトヘ奉レリ日ハテラセレドハ月ノカクルヨナゲクヲ強クネンゴロメ以日ヲ天皇ヲサシ奉ルニトカツサラハナメヅミモキコユレバシカラズ

茜刺日者雖照有烏玉之夜渡月之隱良久惜毛

或本云以件歌為後皇子賓殯宮之時歌反也

高市皇子尊ヲ申シ以註モツテキカキサマ後人ノワザト見エ

或本歌一首

シマノミヤ　マガリノ　イケノ　ハナチドリヒトメ　ニコヒアイケニ　カヅカズ
島宮勾乃池之放鳥人目爾戀而池爾不潜

是ハ右ノ文ニハアラズ次ノ歌人等カ哥トモノ中ニ入ヘキ句ハ高市郡ニテ安宗一ノ宣居ノ有シ所ナルヲ日並知皇子尊ノ領玉ヒテ住玉ヘルナルベシソコニ池島モ有シ故島宮モ名シヘ契沖云橘ノ島ノ宮トモヨメレバ橘寺ノ有アタリナラレトモリ　放チ飼フヨシ其鳥ノナシ人ノヲナツカシミ思ヒテ水辺ニ浮サテ底ハカヅキ入コトヲセズトモ　ハナチ鳥ハ鳥ノ翅ヲキリテ

職員令看宮大舎人六百人ト有尊卑令役島ノ宮ノ外宮ヲ守ルト佐太岡ノ氏喪舎ニ待宿スルト有ユヱニコトカレコヒテノ哥トモアルナリ

皇子尊宮舎人等慟傷作歌二十三首

タカヒカルヒノミコノヨロツヨニクニラサマシシシマノミヤハ
高光我日皇子乃萬代爾國所知麻之島宮婆

日ノ皇子ハ日並知皇子尊ヲ申シハモノモ助辭

母

是ハ母ノ池テ島ノ宮ノ中ニ有シナルベシ　放ナカセ玉ヒシ鳥ドモダニ人ニウトクナリユキソトモ

シマノミヤ　ネイケナルハナチトリ　アラビナコヤリキミマサズトモ
島宮上池有放鳥荒備勿行君不座十方

タカヒカルヒノミコノイマシハアレザラマ
高光吾日皇子乃伊座世者島御門者不荒有

蓋乎

御門ハ美人ノ守所ナレバ寺ライヘリ

ヨリニミシマユミノ　ツカモキミマセバトコツミカドヽトノ
外爾見之檀乃岡毛君座者常都御門跡侍宿

スルカモ

葬送テヨリハコヽヲ常ノ御殿ト思フ心ヲイヘリ

為鴨

宮出ハ御門ヲ出入ス云佐ハ発語ニテ橋限ヽ橋限卿内真弓岡佐太岡ハツヽキタル岡ト云ヒド一本佐田ト有カラスメヽケミ佐田ノ方ヲ用ヘキヽ佐田トスルトキハ限回ハ道ノクマワナドヨメル言シカルヘシ

ユメニタニミザリシモノヲオモヒツヽヘドモコヽロ　ナシ
夢爾谷不見在之物乎歎悒官出毛為鹿作日

ノクマワヲ　思ヒテハコヽイカナル故ニカ此宮ヲ出テアラズ所ノトノイニ行コトオホヒクウタカハルヽ也島宮ヨリ檀岡ハユク間ニ日限テフ所アル故此語ハアリ日之隅橋島ヨリセヲ余真弓岡ヘイト近シ

アメツチトトモニヲヘムトオモヒツヽヘドモコヽロ　ナシ
天地與共將終登念乍奉仕之情違奴

実情妙

アサヒテルサタノヲカヘニムレヰツヽワカヲクヤミタヤム
朝日弖流佐太乃岡邊爾羣居乍吾等哭涙息

トキヲナシ

朝日ノ射ヲモテ山岡宮殿ナトノ景ヲ云フ

時毛無

ミタチヒシシマヲミルトキニハタヅミナガルヽナミダトメゾカネツル
御立為之島乎見時庭多泉流涙止曾金鶴

皇子ノ御池ヲ見覧スルトテヨリ〳〵タヽセヒシ島

檀岡ノ侍宿ヨリ三飯ヒル時コトニフヒ奉ルヨシ

タチハナノシマノミヤニ ハ アカ(ネス) カモ サダノヌカヘ ニ トノ井 シ

橘之島宮爾者不飽鴨佐田乃岡邊爾侍宿爲

ニ ユク

皇子ノ宮ニト井シアカネバカサダノ岡ヘマテトノ井ニユクトヲサナクシテリ

爾往

ミ タチ セ シ シマヲモ イヘ トスムトリモ アラビナ ニキソトシカハル

御立爲之島乎母家跡住鳥毛荒備勿行年替

マ テ

東ヒ年ニモアレカシ

左右

ミ タチ セ シ シマノ アライソヲ イマ ミレバ ホヒザリシ クサ オヒ

御立爲之島之荒磯乎今見者不生有之草生

ニ ケルカモ

上ニアレサラニヲ下ニコノトシコロソトシハ又ノ年ノ春ノ哥ナルヘシ

爾來鴨

ト クラダチカヒシ カリノ コ ス タチナ ハ ミユノカ ニトヒカヘリコ

御池ニ岩ナドタテミ荒磯ノサマツクラレシヲシルヘシ

鳥垣立飼之鴈乃兒栖立去者檀崗爾飛反來

子

トグラス御庭ニ立カカレシ鳥籠ニ コトノカリハ九皐ノコトク爰鴨トモイフモノニテ後ノ妙語ブニカリノコトシルモ是ヘ

年

水傳ハ杭韓

ワカミカド チヨ トコトハ ニ サカヘムト オモヒテ アリシワレシ

吾御門千代常登婆爾將榮等念而有之吾志

カナレモ

常磐 登ニ古伊波 トコトハハトコシ丈ニトコ磐ニトシヲ重ネテ限ナキコトヲツヨクシ

堅磐 加多伎伊波

悲毛

ヒムカシノ タギノミカドニ サモラヘド キノフモケフモ メス

東乃多藝能御門爾雖伺侍昨日毛今日毛召

コトモナシ

池ニ滝有方ノ御門ヲカク名ツケシナヘシ

言毛無

ミツツタイイソノ ウラワノイハツヽジ モクサミチヲ ニタヒ ニヘム

水傳磯乃浦回乃石作自木丘開道乎又將見

カモ

上ノ滝ノ邊ノ磯ノサマミ木丘サクハ紀ニ蕾ノ字ヲモト訓字註草木ノ繁キヲトセリ又ミチムカモハ今ヨリハ必宮ニマヰルマジケレバヨロツニナゴリヲシレキヽ

鴨

ヒトヒニハ チ タビマヰリ シ ヒムカシノ タキノミカドヲ イリカテヌ

一日者千遍參入之東乃大寸御門乎入不勝

カモ

入ガテヌハ入カネルミガテトヨモガテヌトヨモ義同ジ

所由無佐太乃岡邊爾反居者島御橋爾誰加住舞無

且覆日之入去者御立之島爾下座而奥鶴鴨

且日照島乃御門爾欝悒人音毛不為者真浦悲毛

真木柱太心者有之香材此吾心鎮目金津毛

毛許呂裳遠春冬片設而幸之宇陀乃大野者所念武鴨

朝日照佐太乃岡邊爾鳴鳥之夜鳴變布此年巳呂乎

道叙爲

八多籠良家夜晝登不云行路乎吾者皆悉官

右日本紀巳三年巳丑夏四月癸未朔乙未甍

柿本朝臣人麿獻泊瀬部皇女忍坂部皇子歌一首幷短歌

葬河島皇子於越智野之時。

河島皇子ハ天智ノ皇子朱鳥五年九月薨ス
泊瀬部皇女天武ノ皇女河島皇子ノ妃ナリ

△愛也師

飛鳥明日香乃河之上瀬爾生玉藻者下瀬爾
流觸經玉藻成彼依此依靡相之嬬乃命乃多
田名附柔膚尚乎劒刀於身副不寐者鳥玉乃
夜床毋荒良無一云何禮奈牟所虛故名具鮫魚天氣
留敷藻相屋常念而△云公毛相哉登玉垂乃越乃大
野之旦露爾玉藻者涅打夕霧爾衣者沾而萱
枕旅宿鴨爲留不相君故魚養説當日の説ミナゲサメカネテケバレクモトヨムベシ

反歌一首

敷妙乃袖易之君玉垂之越野過去亦毛將相高市郡

八方一云乎知野爾過去

右或本曰葬河島皇子越智野之時獻泊
瀬皇女歌也日本紀曰朱鳥五年辛卯秋
九月己巳朔丁丑淨太參皇子川島薨

天智ノ皇女忍坂部皇子ノ妃也

明日香皇女木殯宮之時柿本朝臣人麿
獻忍坂部皇子

作歌一首并短歌

飛鳥明日香乃河之上瀬石橋渡一云下瀬打

橋渡石橋一云石浪生靡留玉藻毛叙絶者生流打
橋生乎爲禮流川藻毛叙干者波由流何然毛
吾王乃立者玉藻之如許呂臥者川藻之如久
靡相之宜君之朝宮乎忘賜哉夕宮乎背賜哉
宇都曾臣跡念之時春部者花折挿頭秋立者
黄葉挿頭敷妙之袖携鏡成雖見不猒三五月
之益目頬染所念之君與時時幸而遊賜之御
食向木瓲之宮乎常宮跡定賜味澤相目辭毛
絶奴然有鴨一云所已綾爾憐宿兄鳥之片戀
嬬一云爲朝鳥一云朝露往來爲君之夏草乃念之萎
而夕星之彼往此去大船猶預不定見者遣悶
流情毛不在其故爲便知之也音耳母名耳毛
不絶天地之彌遠長久思將往御名爾懸世流
明日香河及萬代早布屋師吾王乃形見何此
焉

短歌二首

明日香川四我良美渡之塞益者進留水母能杼爾賀有萬思 杼爾加有益 一云水乃與

吾王御名忘世奴 一云御名忘所

明日香川明日谷 一云左倍 一云倍 將見等念八方 一云香毛 一云念

高市皇子尊城上殯宮之時柿本朝臣人麿作歌一首 并短歌

挂文忌之伎鴨 一云由遊志 言久母綾爾畏伎明日香乃真神之原爾久堅能天津御門乎懼

冊定賜而神佐扶跡磐隱座八隅知之吾大王乃所聞見爲背友乃國之真木立不破山越而狛劒和射見我原乃行宮爾安母理座而天下治賜 一云拂食國乎定賜等鳥之鳴吾妻乃國之御軍士乎喚賜而千磐破人乎和爲跡不奉仕國乎治跡 一云掃部等 皇子隨任賜者大御身爾大刀取帶之大御手爾弓取持之御軍士乎安騰毛比賜齊流鼓之音者雷之聲登聞麻低吹

フエノオトハノカニサレリ

盛盛

春ノ火ノトアルニマサレリ赤ハタヲ火ニタトヘタリ

者

凡ニドフトアルニカシカハヘシ

端ニハ間ノミヤ

響流小角乃音母一云笛乃音波敵見有虎可叫吼登諸人之恊流麻低爾一云聞指舉有幡之靡者冬木成春去來者野毎著而有火之一云冬木成春野燒火乃風之共靡如久取持流弓波受乃驟三雪落冬乃林爾一云由布乃林飄可毛伊卷渡等念麻低聞之恐久一云諸人見引放箭繁計久大雪乃亂而來禮一云霰成曾婆不奉仕立向之毛露霜之消者消倍久去鳥乃相競端爾一云朝霜之消者消言尓

水ホノ公以下五句天皇ノ亂ヲシ天下中王ハミヽ高市皇子太政大臣ニ任シヒシヲヲヲ

殯宮ハ殯ヤリ御門ノ人モハ舎人ヲヲ御門ノ東下ニ香久山宮トアルヲ以テ之ニ兵衛門ノ前ナル此歌ヲヲ

打蟬等安良蘇布波之尓渡會乃齊宮從神風爾伊吹惑之天雲乎日之目毛不令見常闇爾覆賜而定之水穂之國乎神隨大敷座而八隅知之吾大王之天下申賜者萬代然之毛將有登一云如是毛安良無等木綿花乃榮時爾吾大王皇子之御門乎一云刺竹皇子神宮爾裝束奉而遣使御門之人毛白妙乃麻衣著垣安乃御門之原爾赤根刺日之盡鹿自物伊波比伏管烏玉能暮爾至者大

不得ケテ去ハ
ノ語
サミヨフハナケキ
呼ブミナリ

左

高之ノ二字ハ
足ヲ踏シル歌

知座

反

ムトモヘヤハ
刊ミスギウセ
メヤミ万代トホ
ギ作ラレシ宮
ナレハ失ル代
アラシ足ヲタニ
ヒカタメト作ギ
又テアラムト〉

ナノヲ フリサケミ ツヽウツテナス イハ ヒモトホリ カモラヘドサモラ
殿乎振放見乍鶉成伊波比廻雖侍候佐母良
ヒエ子ハ ウツヒス ノサ ヒヨヒヒヌレハ オキモ イヽグスギヌ
比不得者春鳥之佐麻欲比奴禮者嘆毛未過
オモヒモ イヽタツキ子ガコトウ ヘク タラノ ハラユ タハフリハフリ
爾憶毛未盡者言右敝久百濟之原從神葬葬
イヽマシテ アサモ ヨヒキノ ヌベノミヤヲ トコミヤト タカメシリ ツリテヤ カミヽ
伊座而朝毛吉木上宮乎常宮等高之奉而神
ナカラ ヤエシツ ヤリヤシレヌ シカレドモワガオホキミノ ヨロツヨ ト オモホシメシテ
隨安定座奴雖然吾大王之萬代跡所念食而
ツクラ シシ カグ ヤヤノ ミヤヨロヂヨ ニ スキ ハ ト オモヘヤ アメ
作良志之香來山之宮萬代爾過牟登念哉天
ノ ゴトフリサケミ ツヽ タヽ タスキ カケテ シメバムカレコヒレドモ
之如振放見乍玉手次懸而將偲恐有騰文

短歌二首

ヒサカタノ アメエシラスル キミユヱニ ヒ ツキモ シラスニ コヒワタルカモ
久堅之天所知流君故爾日月毛不知戀渡鴨
一云テ天ニ登ヲ
ハニヤスノ イケノツヽミノ タヽモリヌ ノユクヘヲ シラズ トヂリハ
埴安乃池之堤之隱沼乃去方乎不知舍人者
マドフ
迷惑

陸ニコモリテ水ノ流シ行カヌヲ舍人ノ行ンカヲシラヌ迷ヒフ〉

檜隈女王作歌

或書反歌一首

ナキサハノ モリ ニ ミワス イノレドモ ワガオホキミハ タカヒ
哭澤之神社爾三輪須惠雖禱祈我王者高日
シラシヌ
所知奴

引酒を醸る甕をへふと醸る甕の御酒をそなへてせうれふこゝろをもとろう

右一首類聚歌林曰檜隈女王怨泣澤神
足ヨリ右ノ端ノ詞有ツテ上ノ二首コノ人丸ノ所ナリ此一首体イトコト〉
社之歌也案日本紀曰持統天皇十年丙

ナキサハノ
泣沢女神

天宮云シハ亦トナリテ天路ニ云シメストモ云

寧樂宮下四二ヲアルト上ノ例ニミアルベシ

申秋七月辛丑朔庚戌後皇子尊薨

但馬皇女薨後穗積皇子冬日雪落遥望御

墓悲傷流涕御作歌一首

（周ノ間ハ家人達ノ傍ヘ行寄ルフナレハ雪ハ降クアラバ乃モ彼ンフヲ悲テヨミ思ヒ出ルナルベシ）

零雪者安騰爾勿落吉隱之猪養乃岡之塞爲

安ハ佐ノ義ニテサハニナフリソ欲キ雪ヲ雪ト云ヒ降クツモルヲアハト云ヒアルヨシニヨクカナリ

巻爾

天武皇子

弓削皇子薨時置始東人歌一首并短歌

安見知之吾王高光日之皇子久堅乃天宮爾

神隨神等座者其乎霜文爾恐美畫波毛日之

ツキヲル ハ モヨ ノ ツキフ ニ 井 ナケ ドアキタラヌ カモ

盡夜羽毛夜之盡卧居雖嘆飽不足香裳

アクルヨモ コトニ

反歌一首

オホキミハカミニシマセハ アマクモノ イヤチヘニ ノ ヤヘ ニ カクレタマヒヌ

王者神西座者天雲之五百重之下爾隱賜奴

下ハ裏ニテウチトカニ下ニテモサユ

又短歌一首

サヽナミノ カサヾレナミクニ ツチ ニ トキミナ

神樂波之志賀左射禮浪敷布爾常丹跡君之

オボモホセリ タリケル

所念有計類

柿本朝臣人麿妻死之後泣血哀慟作歌二

首并短歌

所寵 通 娘子死之時悲傷

輕ハ高市郡
イハガキブチ
ミ谷ナドノ岩ノ
垣ノ如クノバタチ
メグレヨロケリ
思ヒカクレテ恋
ルニタヘタリ
ロモツサノ
スベラ集中フニ
カヨハス使ノ
冠ニセイフ松迫

天飛也輕路者吾妹兒之里爾思有者懃欲見
騰不止行者人目乎多見眞根久往者人應知
見狹根葛後毛將相等大船之思憑而玉蜻磐
垣淵之隱耳戀管在爾度日乃晚去之如照月
乃雲隱如與津藻之名延之妹者黃葉乃過伊
去等玉梓之使乃言者梓弓聲爾聞而一云聲耳聞而
將言爲便世武爲便不知爾聲耳乎聞而有不
得者吾戀千重之一隅毛遣悶流情毛有八等

吾妹子之不止出見之輕市爾吾立聞者玉手
次畝火乃山爾喧鳥之音母不所聞玉桙道行
人毛獨谷似之不去者爲便乎無見妹之名喚
而袖曾振鶴　或本有謂之名耳聞而有不得
者白

短歌二首

秋山之黃葉乎茂迷流妹乎將求山道不知母
一云路而不知

黄葉之落去奈倍爾玉梓之使乎見者相日所念

○念之ハ添テ云フモ

○白妙之天領巾隠

葬送ノ旗ヨシ柩ノ前后左右ニハタヨタテ持ユクサマナリ

○トリアツカフモノ玩物ミテ児ノ泣ヲナグサメン料ノ物ノ

姉妹潮臣人麻呂妻之死後悲傷作歌

打蟬等念之時爾一云宇都曽取持而吾二人見之趍出之堤爾立有槻木之已知碁智乃枝之春葉之茂之如久念有之妹者雖有憑有之兒等爾者雖有世間乎背之不得者蜻火之燎流荒野爾白妙之天領巾隠鳥自物朝立伊麻之豆入日成隠去之鹿齒吾妹子之形見爾置

烏徳烏穂代

若兒乃乞泣毎取與物之無者烏穂自物脇狭持吾妹子與二人吾宿之枕付嬬屋之内爾畫羽裳浦不樂晩之夜者裳氣衝明之嘆友世武爲便不知爾戀友相因乎無見大鳥羽易乃山爾吾戀流妹者伊座等人之云者石根左久見乎名積來之吉雲曽無寸打蟬跡念之妹之珠蜻髣髴谷裳不見思者

短歌二首

○去年見而之秋乃月夜者雖照相見之妹者彌
年放

食道乎引手乃山爾妹乎置而山徑往者生跡
毛無

引出ノ山ハ山部郡中村ノ東ノ山ヘ食道ハ中山村食田ノ墓アリ仁賢ノ皇女手白香皇女

或本歌曰

宇都曾臣等念之時携手吾二見之出立百兄
槻木虛知期知爾枝刺有如春葉茂如念有之
妹庭雖在恃有之妹庭雖有世中背不得者香
切火之燎流荒野爾白栲天領巾隱鳥自物朝
立伊行而入日成隱西加婆吾妹子之形見爾
置有緑兒之乞哭別取委物之無者男自物脅
挿持吾妹子與二吾宿之枕附嬬屋内爾且者
浦不怜晩之夜者息衝明之雖嘆爲便不知雖
戀相緣無大鳥羽易山爾汝戀妹座等人云者
石根割見而奈積來之好雲叙無宇都曾臣念
之妹我灰而座者

珠蜻灰谷毛見而不座者

短歌三首

去年見而之秋月夜雖度相見之妹者益年離
フスマチヲヒキテノヤマニイモヲオキテヤトチオモフニイケリトモナシ

衾路引出山妹置山路念邇生刀毛無
イヘニキテワカヤヲミレハタマユカノキカニムキケリイモガコヤクラ

○玉床ユレハ霊床ヒ

○家来而吾屋乎見者玉床之外向来妹木枕
羽易ノ山ニ妻ハイマストナテ尋行ニホノカニモヒエサレバ又家ニカリテ丸ニ空シキ床ニ枕ハカタヘニワチヤアテテ見ム

吉備津采女死時柿本朝臣人麿作歌一首
弁短歌

○下部笛ハ紅顔ニタトフ

秋山下部留妹奈用竹乃騰遠依子等者何方
アキヤマノシタベルイモナユタケノトヲヨルコラハイカサマニ

爾念居可桙纒之長命乎露已曾婆朝爾置而
オモヒヲルカタクナハノナカキイノチヲツユコソハアシタニオキテ

夕者消等言霧已曾婆夕立而明者失等言梓弓音聞吾母髣髴見之事悔敷乎布桙乃手枕纒而劒刀身二副寐價牟若草其嬬子者不怜彌可念而寐良武時不在過去子等我朝露乃如也夕霧乃如也
ユフヘニハキエヌトイヘキリコソハユフヘニタチテアシタニハウセヌトイヘアツサユミオトキクワレモホノニミシコトクヤシキソレモオモヒヲルカモヒテヌラムトキナラヌスキニシコラガアサツユノコトヤユフキリノゴトヤ

○悔彌可戀念良武官本

次ニテ世ハソヘテカケルモノトミエタリ

短歌二首

樂浪之志我津子等何一云志我津之子我罷道之川瀬
サヽナミノシガツノコラカナニヽシワツノコカマカリ

道見者不怜毛
ミチヲミレハサヒシモカナシモ

眞ハ通ノ誤ニテマカリニシナハ(シコハ)ニカリ
ゲニテハワロシ

葬送ノ道ヲエフ

天數凡津子之相日於保爾見數者今叙悔

讃岐狹岑島視石中死人柿本朝臣人麿作

歌一首 并短歌

玉藻吉讃岐國者國柄加雖見不飽神柄加幾許貴寸天地日月與共滿將行神乃御面跡次來中乃水門從船浮而吾擕來者時風雲居爾吹爾與見者跡位浪立邊見者白浪散動鯨魚取海乎恐行船乃梶引折而彼此之島者雖多名細之狹岑之島乃荒磯面爾廬作而見者浪音乃茂濱邊乎敷妙乃枕爾爲而荒床自伏君之家知者往而毛將告妻知者來毛問益乎玉桙之道太爾不知欝悒久待加戀良武愛妻

等者

反歌二首

妻毛有者採而多宜麻之佐美乃山野上乃宇波疑過去計良受也

キキツナニキ ヨルアヲイソヅレキ タヘノマクラトマキテナ セル キヲ

與波來依荒磯乎色妙乃枕等卷而奈世流君

カモ

香聞

○ナセハ寐臥ヲシイハナサシ イヲネナセナドノ如シ

柿本朝臣人麿在石見國臨死時自傷作歌

一首

凡百官卿七者親王及三位以上称薨五位以上及皇親称卒六位以下達於庶人称死

カモヤマノ イハネシヒケル ワレヲカモシラズト イモカマチツヽ

○鴨山之磐根之卷有吾乎鴨不知等妹之待乍

アラハ

將有

柿本朝臣人麿死時妻依羅娘子作歌二首

ケフ ケフト ワカマツミキ ハイレカハノカヒニ

旦今日旦今日吾待君者石水貝爾一云交而

アリト イハズヤモ

有登不言八方

タヾニアハバ アヒモカヲナム イレカハニ クモタチワタレ ミツヽシノバム

直相者相不勝石川爾雲立渡禮見乍將偲

ダヒヒノマビト

丹比真人 名闕 擬柿本朝臣人麿之意

アラナミニ ヨリクルタマモ マクラニ オキワレコヽ ナリトタレカツゲナム

報歌一首

荒浪爾縁來玉乎枕爾置吾此間有跡誰將告

擬柿本朝臣人麻呂妻々意作歌

或本歌曰

アマサガルヒナノ アラノニキミヲ オキテオモヒツヽ アレバイケリトモ

天離夷之荒野爾君乎置而念乍有者生刀毛

ナシ

無

右一首歌作者未詳但古本以此歌載於
此次也

寧樂宮

和銅四年歲次辛亥河邊官人姫島松原見
孃子屍悲歎作歌二首

妹之名者千代爾將流姫島之子松之末爾蘿
生萬代爾

難波方塩干勿有曽禰沈之妹之光儀乎見卷

皇子及

苦流思丹

靈龜元年歲次乙卯秋九月忘貴視王薨時
作歌一首 并 短歌

梓弓手取持而大夫之得物矢手挿立向高圓
山爾春野燒野火登見左右燎火乎何如問者
玉桙之道來人乃泣涙霈霖爾落者白妙之衣
涅漬而立留吾爾語久何鴨本名言聞者泣耳
師所哭語者心曽痛天皇之神之御子之御駕

及

茅徒

高田山春日内ニアリ

之手火之光曽幾許照而有

志貴皇子薨後姓名作奇

短歌二首

高圓之野邊秋茅子從開香將散見人無爾

御笠山野邊往道者巳伎大雲繁荒有可久爾

有勿國

右歌笠朝臣金村歌集出

或本歌曰

高圓之野邊乃秋茅子勿散禰君之形見爾見

管思奴幡武

三笠山野邊從遊久道巳伎太久毋荒爾計類

鴨久爾有名國

萬葉集卷第二